

教育委員会だより

夏休みを迎えるにあたって

地面に生えている植物とプランター（植木鉢）に生えている植物では、基本的に育て方が違います。

例えば、猛暑が続く場合、人工的な環境であるプランターの植物は水をひんぱんにやらないと枯れてしまいます。一方、地面に生えている植物には、その必要がありません。必要以上に水をやりすぎると、その植物自体の乾燥に対する抵抗力が弱まり、少々の暑さでしなびてしまいます。

このように、あまり手をかけない方が、少々の暑さでもたくましく育っていきます。少し考えれば分かることですが、自然の植物はみんなこうして生きているのです。

ある園芸家の方が「植物を上手に育てるポイント」としておっしゃったことを紹介します。

「自分がその植物の気持ちになり、今、水がほしいか」と考えてみる。さらに、その花の様子を見てその声に耳を

傾けてみる」

こうして育ててみると、案外間違えずに生きいきと育っていくものです。

いよいよ夏休みを迎えます。この夏休み、子どもたちが生きいきとした生活ができるように地域、家庭、学校が一体となって取り組んでいきましょう。
（学校教育課）

★自然学校が 無事に終わりました



市内小学校5年生が、1週間家庭を離れて大自然の中でさまざまな活動をしました。
▼養父地域連合小学校（養父・広谷・浅野・建屋）／105人
▼大屋小学校／40人

★地域社会で学んだ 「トライやる・ウィーク」



市内中学校2年生が、市内の事業所で貴重な経験をしたトライやる・ウィーク。多くの事業所の皆さんにご協力をいただき、ありがとうございました。

▼実施期間／6月4日（月）～6月8日（金）
▼参加生徒数／養父中学校177人、大屋中学校41人、関宮中学校46人、八鹿中学校59人、青溪中学校41人
▼事業所数／養父中学校28事業所、大屋中学校18事業所、関宮中学校15事業所、八鹿中学校22事業所、青溪中学校16事業所

▼関宮小学校／39人
▼八鹿地域連合小学校（高柳・八鹿・小佐・伊佐・宿南）／98人

まちの文化財 ③④

く加保坂の

ミズバシヨウ古墳

6月4日から8日まで実施されたトライやる・ウィーク。社会教育課でも11人が活動し、養父中学校の9人が大数集落にある大数古墳群の測量、大屋中学校の2人が大屋町加保坂のミズバシヨウ公園内にある古墳の測量を体験しました。

ミズバシヨウ古墳は昨年11月に発見され、ミズバシヨウ自生地から20メートル離れた北側斜面にあります。今年度発行する「大屋町史資料編」に地形図を掲載するために同古墳を測量調査しました。測量方法は、平板、レベル、巻き尺を利用する平板測量です。

調査の結果、古墳の墳丘の規模は、南北69.0メートル、東西53.5メートルの南北方向にやや長い円墳でした。埋葬施設は、全長45.0メートル、幅9.0メートルほどの横穴式石室であることが分かりました。

これは、7世紀中ごろに造られた円墳で、2つの特色があります。第1に、関宮地域と大屋地域の境界にあたる標高597メートルの山頂付近に立地すること

です。養父市で最高所に造られた古墳です。第2に、最も近い加保集落から直線距離で2キロも離れていることです。これほど山深い場所に古墳が造られることはありません。

加保集落から遠く離れた標高597メートルの山頂付近に、なぜ古墳が造られたのでしょうか。それは、ミズバシヨウの花守として活躍した人物を、村人たちが大切に埋葬したからだと考えています。

加保坂のミズバシヨウは、兵庫県指定天然記念物であり、養父市の市花でもあります。

この古墳は、1300年以上も静かにミズバシヨウを見守っています。
（社会教育課）

